

**次期「仙台市すこやか子育てプラン」で踏まえるべき視点等について**  
**(子ども・子育て会議委員グループインタビュー要旨)**

**1. グループインタビューの概要**

子ども・子育て会議委員それぞれの活動を踏まえた率直なご意見を、次期プランに反映させていくことを目的とし、委員同士の少人数のグループインタビューを下記の通り実施しました。

- 【日時】 ①10月12日(木) 13:30～15:00  
②10月13日(金) 13:30～15:00  
③10月18日(水) 10:00～11:30  
④10月24日(火) 10:00～11:30  
⑤11月9日(木) 13:30～14:30 (要旨は現在作成中)

【テーマ】 (1)次期プランへ盛り込むべき視点について

計画策定後新たに出てきた視点(ヤングケアラー他)、少子化対策、両立支援、ICT、子どもの遊び場等

(2)こども意見の取り入れ方について

意見聴取の手法や取り入れ方(特に10歳未満の子ども)について 等

(3)次期プランにおける成果指標の設定について

(4)その他(子ども・子育て支援の取組み全般、プラン全体の構成など)

**2. グループインタビュー要旨**

各グループのご意見要旨については、次ページ以降のとおり。



## グループインタビュー要旨 ①

実施日時	令和5年10月12日（木） 13：30～15：00	参加者	神谷 哲司委員（進行役） 荒井 康子委員 佐藤 富美子委員 千葉 亨委員 三浦 正幸委員
テーマ	内 容		
1. 次期プランへ盛り込むべき視点について	<p>○コロナ禍で、経済困窮やDV、居場所のない若年女性など困難を抱える女性が顕在化した。令和6年に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されることとなり、特に若年女性（10代から30代半ば）の支援に大きな動きがある。</p> <p>○男女を問わず被害当事者の知識不足等を要因とする性暴力被害防止への取り組みが必要だ。</p> <p>○国の「こどもまんなか社会」に期待はするが中身がまだ見えない。</p> <p>○子どもを中心に考えると、例えば長時間保育の見直しが必要。大人の就労時間短縮や育休取得に繋がれば。</p> <p>○男性の育休取得をもう一押しできると良い。具体的な企業への働きかけも必要だ。</p> <p>○単発的な子育て応援ではなく、生まれてから成人するまでの長期的な支援が必要。</p> <p>○保育所の待機児童ゼロ実現。今後は空いている保育施設の活用が課題となる。</p> <p>○「誰でも通園制度」は保育施設に所属する形をとるので、孤独な育児の解消にも繋がる。通園日なのに利用がないといったきっかけで、保育施設から保護者にアプローチすることもできる。</p> <p>○子ども食堂は一つの団体では月1、2回の実施。また、全国的には保育園で実施するような取り組みもある。いつ、どこで開かれるかなど利用者にわかりやすく、行政がトータルの窓口として機能を果たせるようになるとよい。</p> <p>○インクルーシブ社会（属性によって区別されたり排除されたりすることがない社会）が次期プランのベースになると思う。</p> <p>○子ども子育て支援制度の現在までの評価や、横のつながりなど全体的な仕組みづくりの検討の中でのICTやオンラインの活用等、子ども・子育て支援の取り組みについて長期的にみていく場が必要だ。</p> <p>○プラン改訂のタイミングだけでなく、教育や保健部局等も含めたワーキンググループなど、議論をする場があっても良い。</p> <p>○発達障害等の検査にかかる専門職の確保やアーチルの増設など、検査の待ち時間解消に向けた取り組みが必要だ。</p> <p>○こども病院や児童相談所の専門職の配置や働き方など、子どもに関わる大人たちのおかれた環境も気になる。</p> <p>○子どもたちが安心して暮らせる社会は、大人たちも安心できる社会だ。親を含め子どもに関わる大人の生活環境・職場環境も含めて、トータルで考えていく必要がある。</p> <p>○発達段階に合わせて、子どもが安心安全に思い切り体を動かせる場所がない。</p> <p>○DVなどでは、加害者がどのように問題を抱えてしまったのかという視点をとりながら支援につなげていくことが重要だ。</p>		
2. こども意見の取り入れ方につ	○タブレットを利用したヒアリングを行えば、ゲーム感覚で楽しく回答してくれるのでは。		

<p>いて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童相談所や養護施設にいる子どもは、「子ども権利部会」の会議に参加し、意見表明することも考えられている。</li> <li>○大人ばかりの場に子どもが入り、自分が思うことを発言するのは相当にハードルが高い。ビデオやオンラインといったＩＣＴの活用が有効ではないか。</li> <li>○子どもが言ったことをそのまま受け取るわけにはいかない部分もあり、子どもが言ったことを大人の側で読み替えるという作業・技術も必要。</li> <li>○年齢の低い子どもの思いにアプローチするのは難しい。多少大人の目線が混ざってしまうとしても、両親や先生、子どもに身近で、子どもの思いを代弁できる人に聞くことも有用だ。</li> <li>○仙台市でも“子ども社会参画”を打ち出してはどうか。小さいうちから自分の意見を言うことを体験させることは大切だ。「自分が考えていることを言っても否定されない」という成功体験の積み重ねが必要だ。</li> <li>○意見に対するフィードバックにより参画意識が育成されていく。</li> <li>○主任児童委員の役割に子どもの意見を聴取する役割が加わっても良いのではないかな。</li> <li>○親や先生以外の色々な大人と関わり合う場をつくり、日常的に意見を聞くことがよい。</li> <li>○震災時、仮設住宅や避難所から１０代の意見がなかなか出てこなかったため、ピアサポートとして女子会を開催した。年齢の高い子どもであれば、ピアサポートによって少し先の自分を意識して話ができるのではないかな。</li> <li>○アンケートとヒアリングそれぞれの長所を組み合わせると良い。</li> <li>○セクシャリティや障害のある方への配慮など、多様な意見を吸い上げられるよう聞き取りの枠組みを工夫する。</li> <li>○児童館でのイベントで、子どもたちに“嬉しかったことと困ったこと”を書いてもらった。</li> </ul>
<p>３．次期プランにおける成果指標の設定について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○若年人口の維持。出生率を目標にするのは難しいので、流入人口も含めて考えては。</li> <li>○アーチルの待ち時間の解消(箇所数の増)。</li> <li>○児童心理司、福祉士、保育士等の子どもに関わる仕事をしている人の職業満足度を測る。ワークライフバランスの指標化。</li> <li>○現場の人材にとっては、やっていることが認められる、承認されるということも重要。そのあたりもうまく指標として検討してもらえれば良い。</li> </ul>
<p>４．その他(子ども・子育て支援の取組み全般、プラン全体の構成等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○雨の日でも利用できる子ども向けの屋内の遊び場が必要だ。</li> <li>○子どもから高齢者まで楽しめる大型施設の設置など、団体が主体となって動いているものについても市からも支援があるとよい。</li> <li>○３歳７か月健診と就学時健診の間が空白となる。すべての子どもに５歳児健診を実施する等、健診体制を充実することで、小学校に入ってからトラブルや問題の発生が軽減されると思う。</li> <li>○電車や避難所で、子ども連れの親が肩身の狭くなる思いをすることがある。社会全体の理解が進むような啓発があると良い。</li> <li>○地下鉄の車内吊り広告の空きスペースを利用して「子どもの声は元気の源」のような啓発ポスターを掲出したらどうか。</li> </ul>

## グループインタビュー要旨 ②

実施日時	令和5年10月13日（金） 13：30～15：00	参加者	佐藤 哲也委員（進行役） 市川 やや委員 佐藤 真奈委員 清野 英俊委員 土倉 相 委員 橋本 潤子委員
テーマ	内 容		
1. 次期プランへ盛り込むべき視点について	<p>○これまでは、働いて子育てをしている人の支援に重点が置かれてきたように思う。子どもとしっかり向き合いたいという人への視点も大切にしたい。</p> <p>○少子化対策が現行プランの中でどういう位置づけになっているのか見えない。もっと前面に出して良い。</p> <p>○晩婚化が出生率低下の要因の一つだと思うが、妊娠適齢期に卵子の凍結保存をし、産みたいタイミングで妊娠・出産できるというような環境も必要だ。</p> <p>○不妊治療の保険適用も拡充してはいるが、まだ遅れを感じる。</p> <p>○LGBTQの当事者たちが新たな形の家庭を持ち、子育てをしたいということもあるだろう。「育てる」段階にも、多様性を考慮した施策が必要だ。</p> <p>○「子育ては大変だ」「自分の時間を取られる」というイメージが少子化要因の一つだ。</p> <p>○育児の孤立は急速に進んでおり、並行して虐待相談件数も増加している。</p> <p>○虐待につながりやすい場面や、夫婦げんかの場面に入ってくる第三者がいない。親も一人っ子で、おじさんやお婆さんがいないことも多い。近隣のつながりもない。</p> <p>○1人の子どもに対して、地域の中で多くの大人が関われる仕掛けが必要だ。</p> <p>○学校は一人の子どもに多くの大人と関われる場。学校に教育だけでなく、養育もするというスタンスもあるといい。</p> <p>○空き教室や校地などを利用し、地域の人がソフト面で支える仕組みができないか。</p> <p>○学校には校庭という遊び場もある。教員も児童の放課後の生活に少し関わると良い。外部の方に講師として入ってもらっても良い。</p> <p>○学校は安全や保健衛生上の問題などから閉鎖的になりがちだが、そこを開いていき、協力していくような手立てが必要ではないか。</p> <p>○児童生徒の放課後の生活をどうするか。学校施設の利用などいろいろなことを考えながら施策展開していくことが必要だ。</p> <p>○学校が養育もやるというのは良い考えだが、教員の仕事が増え、養育のスキルを身につけることも大変だ。実施するには教育改革がいる。</p> <p>○社会的養護において、児童養護施設よりも里親を優先するという国の考えもあるが、里親の家庭でも一般家庭と同じ育児の孤立の問題が生じる可能性がある。</p> <p>○児童養護施設も子どもに多くの大人が関われる場だ。大人が多く関わっていくという仕掛けは、地域の中においても必要なのではないか。</p> <p>○児童養護施設でも、地域の中で予防的な動きができないかと思っている。市としても社会的養護の子どもたちに大人が関わる仕掛けづくりや保護者が相談できる窓口づくりができないか。</p> <p>○民生委員は様々な情報を持っている。これを誰が主体となって活用するかという視点が不足している。</p> <p>○民生委員や町内会の担い手がいなくなり、地域の結びつきや教育力が落ちてくること</p>		

	<p>を危惧している。</p> <p>○民生委員が地域の安全や教育力等を担っているということが認知されると良い。</p> <p>○心理的安全性が今の子どもたちには大切だ。「ありのままの自分でいい」と思わせてくれる環境が教育にとって重要だ。家庭だけでなく、学校、児童館、施設でも、自分の考えを率直に言える環境を提供することが必要だ。</p>
2. こども意見の 取り入れ方につ いて	<p>○児童の権利の4原則の一つ「参加する権利」が手薄だ。「自分はこうしたい」という意見表明も参加に含まれるが、この意見表明を前面していこうというのが国の考えだ。</p> <p>○自分の意見を述べられる環境が大切だ。</p> <p>○大人がいる時と、子どもだけの時とで子どもの意見は変わる。</p> <p>○子ども主体の子ども会議をやってみたらどうか。</p> <p>○子ども会議のような場で、いわゆる優等生的な意見が展開されるのも良いし、また別の機会でもっと本音の意見が交わされるということがあっていい。子どもの意見を取り入れるためのいろんなチャンネルを開く工夫は考える必要がある。</p> <p>○市民センターで活動しているジュニアリーダーは10歳以上だが、中高生のチームリーダーなどを入れて、うまく和ませながらこども会議ができると思う。</p> <p>○10歳以下となると、進行役の大人が入ったとしても難しいのではないかな。</p> <p>○年齢に応じて、保育園や幼稚園、小学校、中学校と、自分の意見を表明し、他の人の意見も聞くという教育が必要だ。</p> <p>○大人は自分の感情を言語化できるが、子どもは言語化による感情の消化ができない場合がある。言わないからといって、不安が「ない」のではなく、ストレスを抱えてしまう場合もある。</p> <p>○教育委員会で子どもたちの意見の吸い上げの司令塔役を担えないか。意見の吸い上げにはスキルも必要。「言わないけど、この子はこう感じているのだろう」というのは、日ごろ児童生徒と接している教員であれば分かるのではないかな。</p> <p>○宮城教育大学のような研究のスキル・スタッフを持つ団体と連携していくのもよい。</p> <p>○児童館の職員にだったら話せるということがある。児童館では、家でも学校でも見せない姿を見せてくれる。</p> <p>○児童館を使わない手はない。ひと・まち交流財団やNPO法人等、いろいろなところが運営しているので、様々なスキルを持った職員がいる。</p>
3. 次期プランに おける成果指標 の設定について	<p>○数値目標が独り歩きする形にならないようにしなければならない。指標を達成していても、他の問題があったり、矛盾が起きたりということもある。あくまで評価の視点の一つとして、周辺事情の丁寧な分析や評価も必要だ。</p> <p>○企業では、「達成できそうな目標」を立ててしまい、クリエイティブでなくなったという事例もある。</p> <p>○定点観測的に行う分にはよいが、縛られすぎない方がよい。</p> <p>○数値目標は、数だけでなく質的な変化を追っていくことが大切だ。経年変化や内訳をみていかなくてはならない。</p>
4. その他(子ども・子育て支援の 取組み全般、プラン 全体の構成等)	<p>○プランは全体をカバーする性質上、総花的になることが多い。課題や施策の重点項目、優先順位といったものを、どこかに盛り込めないかな。</p>

### グループインタビュー要旨 ③

実施日時	令和5年10月18日（水） 10：00～11：30	参加者	村田 祐二委員（進行役） 大橋 雄介委員 菅澤 美香子委員 平山 乾悦委員
テーマ	内 容		
1. 次期プランへ盛り込むべき視点について	<p>○「切れ目のない支援」というが、虐待診療の現場にいと切れ目ばかりが目立った。</p> <p>○「ネウボラ」に倣った、子育て支援をワンストップで提供する拠点があるとよい。</p> <p>○幼稚園・保育所から小学校へ、小学校から中学校へと、子どもの情報を申し送りすることはできてきたように思う。</p> <p>○虐待等で児童相談所が絡むようなケースでは、引っ越しで情報が途切れ、子どもの状況把握までに時間がかかることもある。</p> <p>○子どもの医療について、親がうまく情報を入手できていない状況がある。</p> <p>○「地域社会全体で子ども子育てを応援していく環境づくり」はもっと前面に出したい。</p> <p>○小学校と地域のつながりの薄さを痛感している。一層のつながりづくりが必要だ。</p> <p>○子ども会は存続の危機。活動への補助など、行政とのつながりを強化できないか。</p> <p>○新設予定の仙台こども財団は、市内の子ども子育て関係団体の間を取り持つといったことが目的に示されており、非常に期待している。</p> <p>○子どもの自殺は過去最多水準。「子どもの自殺予防」は大事なキーワードだ。</p> <p>○不登校やひきこもりへの支援は、教育委員会だけではできないものもある。福祉部局の施策の中でも注力すべき取り組みとしていかなければならない。</p> <p>○不登校の子どもは、小学校だと担任の先生がいて居場所を見つけられることもあるが、中学に入学すると登校できなくなる。学校に“仮の居場所”があるといい。</p> <p>○子どもの安全に関しての事件・事故が全国で続発している。事業者だけの責任でなく、仙台市として、どうやって防いでいくのかということも視点として必要だ。</p> <p>○事件・事故防止には、支援するスタッフの処遇・待遇の改善も関わる。スタッフが確保できず、不適切な人材を入れてしまうということにもなりかねない。</p> <p>○日本版DBSも完全ではない。処遇の改善も含め、人材に関する取り組みが大切だ。</p> <p>○子どもの貧困対策は引き続き大切なテーマだ。他の新たな視点の中で、貧困対策が薄くなっていかないような配慮、意識がほしい。</p> <p>○児童館と学校との関係が希薄だ。学校や行政との連絡協議会はあるが、開催頻度を上げ、児童館に対する具体的な提言や要望が関係各所に繋がっていく仕組みが必要だ。</p>		
2. こども意見の取り入れ方について	<p>○声を出せない子どもの声を、聞く方の耳を変えることが必要だ。「こんなことってどう思われるのか」という不安があれば、SOSも出せない。</p> <p>○被虐待児やヤングケアラー等、当事者の子どもの声をどう吸い上げるかが課題だ。1対1や小人数形式で時間をかけて話を聞いてもらえる、またはリラックスできる雰囲気意見を言える場所があればいいと思う。</p> <p>○生きづらさを抱えた当事者の子どもへは、長くかわり信頼関係のある職員などが聞き取ることも大事だ。</p> <p>○ヤングケアラー支援事業で、「ピアサポーター」という当事者経験のある若者たちに関わってもらっている。その若者たちに過去を振り返って話してもらうことで、現状を把握できるのではないかな。</p>		

	<p>○小学校の授業に組み込み、モデル授業として Google フォームを使いながら意見を聞くということも考えられないか。</p> <p>○学校の Chromebook を使ってアンケートを行う際は、答えやすい文言やボリュームなど、子どもの集中力が切れないよう配慮が必要だ。</p> <p>○小学校低学年だと Chromebook のアンケートに結構適当に回答している様子も見られる。幼い子からアンケートで意見を聞くのは難しいと思った。</p> <p>○多数へのアンケートではなく、抽出した学校に依頼し、先生方に意図を理解いただいた上で、子どもたちに聞き取るようなやり方でないと本音は聞けないのではないかな。</p> <p>○学校現場は多忙であるため、児童・生徒にヒアリングする場面をつくるというのは簡単ではない。その必要性をしっかりと説明していくことが大切だ。</p> <p>○先生に丸投げするのではなく、専門の講師を派遣するということも必要。</p> <p>○児童館に意見を聞くスキルを持った人が来て、「みんなの意見を聞いて仙台市の取り組みに反映させる」と言ってヒアリングをしたら、子どもたちは喜ぶと思う。</p> <p>○児童館運営にあたり、「子どもインターン」みたいなものを作り、やりたい事を聞き取り一緒に企画することを行っているが、これも意見聴取の手法の一つと思っている。</p> <p>○児童館、児童クラブの指定管理を公募する際に、子どもの意見を聞く取り組みをしようとしているかを選定基準の一つにするなど、間接的に子どもの意見が児童館運営に反映されるようにする仕掛けも大事と考える。</p> <p>○反社会的行動をとる子どもについては、意見聴取の方法も確立してきている。これに対し非社会的な子どもたち(不登校等)と、その親たちの意見をいかに聴取するかは課題だ。ウェブやネットを活用することも大事だろう。</p> <p>○家庭で子どもと親が向き合って、1つのテーマで話をするということが減っている。保護者が子どもの意見を聞いてまとめるといった聞き取り方は、家庭での親と子の繋がりを強めるという効果もあるのではないかな。</p>
3. 次期プランにおける成果指標の設定について	<p>○乳児院にどのくらい子どもがいるのか、里親にどのくらい行っているかなど。</p> <p>○ケアリーバー（社会的養護を終えた子ども）も含めた就労支援の数値。</p> <p>○K P I を達成したときに、計画の目標の達成がどう繋がっているのか分かりにくい。</p> <p>○心や体、学力の育成についての指標も必要だ。</p> <p>○例年の体力・運動能力測定や、仙台市の標準学力検査、「生きる力」では自分づくり教育の実践など今あるもので評価できるものもある。</p> <p>○教員が児童生徒に寄り添えるよう、クラスの人数を減らしてもらえるような施策が必要。カウンセラーやさわやか相談員などの配置も進めてほしい。</p> <p>○クラスに行けない子の居場所（在籍学級外教室）は小学校にこそ必要。配置校数の目標があると良い。</p> <p>○障害のある子どもに関する指標が不足している。</p> <p>○両立支援では、家庭や企業の取り組み、男女がともに担う子育て等の視点も踏まえた指標が入ってくるとよい。</p> <p>○保育士の確保と同様に、児童館・児童クラブについても必要な人員確保についての指標が必要と思う。</p> <p>○子どもの貧困対策は、貧困の連鎖を防ぐという部分が強く、進学や経済的自立といった将来の視点ばかり大事にされている。いま現在のウェルビーイングや、権利擁護といった視点も必要。高校進学率は指標から外してもよいのでは。</p>
4. その他	(なし)



## グループインタビュー要旨 ④

実施日時	令和5年10月24日（火） 10：00～11：30	参加者	吉田 浩 会長(進行役) 海老澤 永子委員 丹野 由紀委員 中嶋 嘉津子委員 三浦 じゅん委員
テーマ	内 容		
1. 次期プラン へ盛り込むべき 視点について	<p>○「男性の育児参加」という視点をもう少し太い柱としてよい。</p> <p>○男性育休など両立支援は企業によって温度差があるため、障害者雇用のように数値目標などを打ち出して働きかけしていくような施策も必要だ。</p> <p>○育休だけではなく、時短勤務という考え方もあってよい。</p> <p>○子育てがひと段落した後の復職のハードルがもう少し下がると良い。</p> <p>○今は、子どもが産まれたときから、親はスマホを見ている。愛着の低下など、そういう親の下で育った子どもが親になった時のことも注視していかななくてはならない。</p> <p>○子どもがスマホを持つタイミングが低年齢化することの影響もあるだろう。人との接し方や引きこもり問題にも関わるのではないかな。</p> <p>○携帯ゲームを含めたSNSの利用で、被害者や加害者にならないための教育は非常に大事だ。SNSのプラス面・マイナス面のバランスのある教育が必要と思う。</p> <p>○ネット依存になると昼夜逆転の生活になり、不登校にも直結する。不登校の理由は様々だが、不登校になるきっかけの一つをなくすことはできる。</p> <p>○不登校の子どもに多様な居場所を作るサポートという視点も重要だ。</p> <p>○望まない妊娠は社会的養護につながりやすいリスクを持っており、虐待死に直結する可能性もあるため、そのような方を支援する視点も大事にしていきたい。</p> <p>○スポーツ少年団に加入する子どもが非常に減っている。発達障害の子が増え、監督やコーチをする地域の方々の理解が得られないということも要因の一つのようだ。こうした場面でのバックアップ体制も必要だ。</p> <p>○障害のある子も、大人になった時に働ける場があれば社会の担い手になれる。そういう子どもを取りこぼさず、社会に参画できるようにする仕組みづくりが大切だ。</p> <p>○医療的ケアの必要な子どもを地域の保育施設等に預けることを考えると、マンパワー不足解消やスキルアップが重要になってくる。</p> <p>○障害児の学校選択に関して、インクルーシブ教育的な視点が必要だ。今は、特別支援学級（学校）か普通学級かを迫られ、選択肢が少ない。</p> <p>○社会的養護について、一時保護を受けられる里親は限られている。システムを変えていくことが必要だ。</p> <p>○行政の中でも、社会的養護が必要な子どもたちがいることへの理解や、対応の仕方についての意識改革が求められる。</p> <p>○性教育について、自己決定の権利、つまり、嫌なときは嫌だと言っていいということは低年齢からでも教えられるものだ。</p> <p>○金融リテラシー、お金の使い方やライフプランについての教育は、生きていく力のベースになる。</p> <p>○コロナ禍で生まれたときからマスク生活の子どもたちについて、コミュニケーションへの影響などを見ていくことも必要ではないかな。</p> <p>○遊び場について、小学校中学年くらいまででも、自然と触れあって、体を動かすこと</p>		

	<p>は楽しいと思えるような場所があるといい。子どもたち同士が触れ合える場、親以外の人たち、ほかの価値観に触れる場所があると良い。</p> <p>○一時保護所などでアドボケイト事業を実施しているが、それを拡充する。アドボケイトから表明してもらった意見をどう施策に反映していくのかという仕組みづくりも必要だろう。</p> <p>○少子化対策について、税収とか労働力とか、経済的に価値があるから支援しようというのではなく、子どもや親も一人一人大切な存在だから支援するという考えが浸透すると良い。</p>
2. こども意見の 取り入れ方について	<p>○10歳以下の子どもに対する意見聴取の手法・内容は今後検討していく必要がある。</p> <p>○裁判所で子どもの意見を聞くのは小学1年生以上が多い。話を聞く際は、言葉だけではなく態度や様子、表情など全てを記録し意見を把握する。</p> <p>○テーマを絞った形で子どもに聞くのが良い。例えば遊び場についてテーマにして、子ども自身の意見が反映された遊び場ができるのが一番良い。</p> <p>○札幌市では、廃校になった学校を利用してフリーに遊べる場所を作るなどしている。子どもの意見を取り入れてやっていると見える形で示すことも必要だろう。</p> <p>○子ども議会をつくり、子ども議員が実際に市議と対談するなどの経験があってもよい。幼少時から市を動かせるという自覚があると、将来の投票率向上にも繋がりそうだ。</p> <p>○小学3年生からはタブレットの入力やローマ字入力ができるため、1、2年生は紙で、それ以上はタブレットを使用したアンケートという形が答えやすいと思う。</p> <p>○大人になった社会的養護の当事者に、昔を振り返ってもらって、「こういう制度があれば良かった」「こういう関わりをして欲しかった」などの声を聞くこともできる。</p> <p>○子どもの主張を表明できる作文コンクールを実施してみても良いのでは。</p>
3. 次期プランにおける成果指標 の設定について	<p>○「子どもの満足度」は必須だ。</p> <p>○親の負担の程度や子育ての喜びを感じる人が多いかなども検討されるだろう。</p> <p>○助成金・費用の減免等の「経済支援」、保育所・預かりサービス等の「現物支援」、カウンセリング・サポート事業等の「相談支援」、知識・情報・研修・啓発・広報等の「提供支援」がしっかり行われているかが分かることが必要だ。</p> <p>○男性の育休取得率については、はっきり数値として表すことへの懸念もあるが、数値を出した方が効果を期待できるのではないかな</p> <p>○スマホやITの適切な使用に関する指標があるといい。発達遅延や認知症リスク等スマホ依存による脳への悪影響の把握にも繋がる。</p> <p>○スポーツ・文化活動への参加率。障害のある子どもも含め、より多くの子どもたちが社会活動に包摂されるべきだ。</p> <p>○避妊や望まない妊娠等、自分の身を守る為の知識の提供という項目があるとよい。研修や相談など教育の機会があるかということも指標に入れられる。</p> <p>○アドボケイトの観点から、子どもの意見を聞き取った件数等に関する指標も必要ではないか。</p>
4. その他(子ども・子育て支援の 取組み全般、プラン 全体の構成等)	<p>○里親の急用や休みたいときなどに、里親でないサポーターに預けることができる仕組みがあるといい。川崎市で実施している「里親養育支援事業」などの例がある。すすくサポート事業は協力会員の不足で対応できない場合が多い。</p>